

## 第2回支援員研修会 報告

日時 令和6年10月26日(土) 13:00~15:30  
場所 里山ビオトープ二侯瀬(宇部市大字車地)

### ー 里山ビオトープ二侯瀬での活動紹介と特定外来生物の駆除活動 ー

講師 里山ビオトープ二侯瀬ふれあいの会 会長 関根雅彦氏、前田歳朗氏、原谷一誠氏  
里山ビオトープ二侯瀬ふれあいの会 事務局(宇部市環境政策課) 岡 昌宏氏

「里山ビオトープ二侯瀬」は、山や田んぼ、集落といった、人手が入った自然環境「里山」と、ドイツ語で生物生息空間を表す「ビオトープ」を組み合わせた施設で、自然環境教育の場としても利用されています。曇り空で蒸し暑い中、11名の支援員が参加しました。

まず、「里山ビオトープ二侯瀬ふれあいの会」(以下、「ふれあいの会」)事務局の岡講師から、この施設は平成12年度に山口県の「厚東川水系水環境21創造事業」により整備が決定。平成12年9月に、地元住民及びボランティアで結成された「里山ビオトープ二侯瀬をつくる会」(以下、「つくる会」)によって、二侯瀬地区に休耕田を活用したビオトープの企画・設計、造成工事及び施設整備が行われ、維持管理されてきたとの説明がありました。平成21年度に宇部市が環境学習の場として活用することで土地を購入し、「つくる会」がビオトープを維持管理し続けましたが、令和5年度に会員の高齢化等を理由に解散、令和6年度に宇部市が事務局として関わる「ふれあいの会」を結成し、現在に至っています。



次に「つくる会」より現在まで関わってこられた関根会長から、官民協働の手作業でつくった「ため池ゾーン」や「湿地ゾーン」等4つのゾーンが紹介され、ここに生息する特定外来生物や希少野生植物等を観察しながらビオトープを巡りました。「つくる会」の会員による長年の活動が評価され、過去に2度受賞歴があるそうですが、広大な里山ビオトープを目の前にすると、その維持管理の大変さが実感できます。

さて、いよいよ特定外来生物(オオフサモ)の駆除活動開始です。今年あまり生えておらず、関根会長や会員の前田様、原谷様のご指導を受けながらオオフサモ除去の他、池の草刈りを行いました。胴長での作業はきつく、ビオトープ周辺の草刈りや水路の管理、池の除草や外来生物の除去といった維持管理を行い、生物多様性を保全するには大変な労力が必要であることがわかりました。



これが「オオフサモ」だ! 取っても取っても草がある...



研修会を終えて、皆で記念撮影

「里山ビオトープ二侯瀬ふれあいの会」の活動に興味がある、参加したい、という支援員の皆さん! 宇部市ホームページで紹介されている内容をご覧ください! [こちら→](#)



### アンケートより

- ・里山はエリアの広さに応じて、一定の人材がないと維持が難しいことがわかった。
- ・活動に参加したい。(同意見 多数あり)
- ・駆除にかかる時間がもっと多くほしかった。

## 今年の干支は巳です！！山口県の国指定の文化財である 岩国のシロヘビに会いに行ってみませんか！？

岩国のシロヘビとは岩国市周辺の限られた地域にだけ生息するヘビで、長さは180cm、ときにはそれ以上に達し、胴回りは15cm余の大きさです。目はルビーのように赤く、全身は白く光沢があります。性格はおとなしく温順で人に危害を加えることはありません。アオダイショウのアルビノ（白化個体）と考えられています。アルビノ自体は珍しくはありませんが、すぐ滅失することが普通であり、アルビノが個体群として維持されることが非常に珍しいため、遺伝学的な価値が高いとされています。

シロヘビの起源は明確ではありませんが、1738年（元文3）千石原で発見されたことが岩国藩の記録に残されています。1862年（文久2）「錦川誌」によると岩国藩の米倉に住み着いているという記録があります。シロヘビは米倉にいるネズミを餌として生活していたと考えられています。米倉は、廃藩置県後、八百新という酒屋の所有となりましたが、店主はシロヘビを大切に保護したと言われており、シロヘビは付近の民家や石垣に住みついたと考えられています。

戦後建物の構造も変わり、餌となるネズミ等も少なくなり、その生息数は減少していました。このため、放飼場や保護増殖施設をつくり保護活動を進めた結果、1000頭程度にまで回復しましたが、自然下で生息しているシロヘビはほとんど見られなくなっています。

### ●アルビノとは

突然変異によってメラニン色素を合成できなくなった生物であり、潜性遺伝のため通常個体との間にできた次世代では通常体色となります。また、体色が白くて目立つため天敵に捕食されやすいといわれています。

### ●アオダイショウについて

本土最大のヘビで日本の固有種となっています。体はくすんだ緑色やオリーブ色をしており、濃い褐色をした縦縞が入っています。顔は角ばっており、目の後ろに黒い筋が入っています。全長は大きいもので200cmほどにもなります。幼蛇の体の色は灰色に近く、褐色の格子が入っているため、ニホンマムシと間違えられます。

### 【生態】

森林や農地、水辺などでも暮らします。昼行性で地表でネズミや鳥類を餌とします。腹部の測稜を引っ掛けることで木や壁をたくみに登ります。春から夏にかけて繁殖し、10年以上生きるとされています。

アオダイショウ



岩国のシロヘビ

